

本県育成水稻 極良食味品種

お米にツヤがあり、
粘りが強く、おいしい！

この度、当センター農産園芸研究所において、良食味の水稲新品種を育成しました。

本品種は、炊き上がりのお米にツヤがあり、粘りが強く極良食味です。

また、草丈が低く倒伏しにくいいため、栽培しやすく、穂数が多いことから収量性が高いことも特徴です。

この新たに育成された品種を皆様に親しんでいただくため、名称を募集し、品種名を「くまさんの輝き」としました。

県産米を新たにリードする「次世代リーディング品種」として期待されます。

目次

新品種・新技術の紹介

水稻「くまさんの輝き」育成 P.2

ナス「ヒゴムラサキ2号」育成 P.3

早生カンキツ「みはや」
の高品質果実生産技術 P.4

かがや
「くまさんの輝き」



「くまもと農業」の魅力を発信できる新品種

1

かがや

水稻極良食味品種「くまさんの輝き」の育成

本県では、水稻中生品種「ヒノヒカリ」、
「森のくまさん」、「くまさんの力」が米の
食味ランキングで高評価を得て、県産米の知
名度が向上し、ブランド米確立に向けた機運
が盛り上がりを見せています。

そのような中、新たな極良食味米品種を導
入し、栽培法等に基準を設けることで、さら
にレベルアップした県産ブランド米の確立を
図りたいとの要望が高まっており、県産米を
新たにリードするブランド米となる極良食味
品種を育成しました。

1 特性

- (1) 「ヒノヒカリ」より草丈が低く、倒伏
しにくいです。
- (2) 「ヒノヒカリ」より穂数が多く、収量
性が高いです。
- (3) 高温登熟性は「くまさんの力」並の
‘やや強’で品質に優れます。
- (4) 炊き上がりのお米は、口当たりが良
く、「粘り」があり、食味に優れてい
ます。

2 栽培上の留意点

- (1) 山麓準平坦地域を中心に作付を推進し
ます。
- (2) 熊本県推奨うまい米基準を目指した良
食味生産を図るため、極端な多肥を避

けて下さい。

- (3) いもち病に対する抵抗性が不十分であ
るため、「ヒノヒカリ」等に準ずる薬剤
防除に留意して下さい。



左：くまさんの輝き 右：ヒノヒカリ

写真 稲体の様子



水稻新品種
「華錦」品種登録

当センター農産園芸研究所が育成した水稻新品種「華錦」が平成28年11月7日に品種登録されました。

これまでの品種は、吟醸酒や純米酒に優れた醸造適性を持つ反面、収量性が低い等の課題がありました。

そこで、収量が多く、かつ醸造適性に優れた県オリジナル品種を育成しました。

特徴は、醸造適性に優れ全国でも評価の高い「山田錦」に比べ丈が短くて倒伏しにくく、安定した収量が得られます。また、玄米の粒は大粒で、心白の発現も良好であり、醸造適性に優れています。

平坦地から高冷地において作付けが行われています。



ナス新品種「ヒゴムラサキ2号」の育成

ナス「ヒゴムラサキ」は弱光や高温等によって果皮色が薄くなる傾向にあり、舌出し果の発生が多いことが課題です。そこで「ヒゴムラサキ」の良食味を維持し、果皮の着色性に優れ、舌出し果の発生が少ない品種を育成しました。

高く、舌出し果の発生は少なくなります（図1）。

2 栽培上の留意点

- (1) 平坦地では夏期の高温の影響で果実品質が低下しやすいため、準高冷地の夏秋栽培に適しています。
- (2) 「ヒゴムラサキ」同様、果皮の擦れや押し傷みが発生することがあるので、果実の取り扱いに注意して下さい。

1 特性

- (1) 草姿はやや開張性で草勢は強く、節間長は「ヒゴムラサキ」よりやや長く、茎径、着花数は同程度です。
- (2) 果皮色は「ヒゴムラサキ」より着色性に優れ（写真1）、果形、果肉の軟らかさ及び食味は「ヒゴムラサキ」並で優れています。
- (3) 可販果収量は「ヒゴムラサキ」より多い傾向であり、秀品率が



ヒゴムラサキ2号 ヒゴムラサキ

写真1 果実の外観

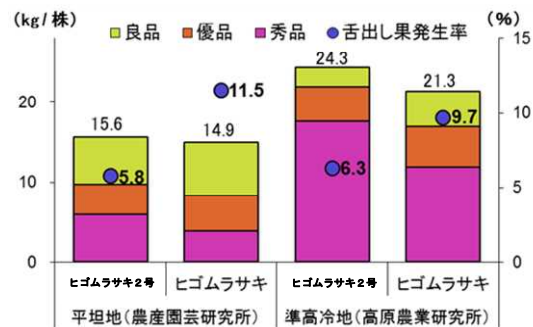


図1 可販果収量と舌出し果発生率



写真2 草姿

○用語説明

・シートマルチ栽培

樹冠下へ透湿性シートを敷設して、降雨を遮断し、土壌を適度に乾燥させ糖度の高い果実を生産する。



写真1 シートマルチ栽培

・果皮褪色抑制

褪色が発生しやすい位置になっている果実を白色化織布で被覆し、褪色を防ぐ。



写真2
白色化織布による
果実被覆の様子

熊本農業の未来を拓く攻めの農業技術開発

3

早生カンキツ「みはや」の高品質果実生産技術

「みはや」は、果皮が鮮やかな赤橙色で糖度が高く酸味の少ない食味のよい品種です。園地や気象条件により糖度にバラツキがあること、また、完着後の果皮の褪色によって外観の美しさが十分に発揮できない恐れがあります。そこで、紅が濃く見栄え抜群の高糖度果実生産技術を確立しました。

1 高品質果実を生産するために

(1) 8月上旬から樹冠下に透湿性シートを敷設するシートマルチ栽培(写真1)をすることで、12月上旬には糖度13以上、クエン酸濃度1%以下の果実が生産出来ます。

(2) 仕上げ摘果後から着色開始期までに樹冠外周部の果実を中心に白色化織布で果実を被覆すること(写真2)で褪色が軽減され、紅が濃く、外観良

好な果実が生産出来ます。

2 栽培上の留意点

(1) 高糖度果実を安定的に生産するには、水はけが良く乾燥しやすい園地に植栽し、根域層を浅く保つ必要があります。

(2) シートマルチ栽培を行うとやや小玉果になるため、果実の初期肥大促進を目的に、粗摘果を中心に摘果を行い、7月上旬に内成り・裾成り果実を中心に摘果します。



写真3 果実の外観



〒861-1113
熊本県合志市業3801
tel 096-248-6411
fax 096-248-7039
E-mail:
noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

本紙の内容に関するお問い合わせは、
企画調整部企画情報課までご連絡
ください。

管理部

総務課
経理課
096-248-6412

企画調整部

企画情報課
096-248-6423

農産園芸研究所

作物研究室
パイ育种研究室
花き研究室
野菜研究室
096-248-6444
矢部試験地
0967-72-0162

生産環境研究所

環境保全研究室
土壌肥料研究室
施設経営研究室
病害虫研究室
096-248-6447

畜産研究所

大家畜研究室
中小家畜研究室
生産基礎技術研究室
飼料研究室
096-248-6433
茶業研究所
096-282-6851

い業研究所

アグリビジネス支援室
0965-52-0500
フードバレー推進室
0965-52-1020
いぐさ研究室
0965-52-0372
いぐさ普及指導室
0965-52-0782
野菜栽培研究室
0965-52-0770

草地畜産研究所

0967-32-1231

果樹研究所

常緑果樹研究室
落葉果樹研究室
病虫化学研究室
0964-32-1723

高原農業研究所

0967-22-1212

球磨農業研究所

0966-45-0470

天草農業研究所

0969-22-4224